平成 23 年度

事 業 報 告 書

グリーフキャンプ in 台湾（2012.3.27）

公益社団法人日本キャンプ協会

目　次

平成23年度事業総括 1

１）キャンプの活動を社会に広め、発展させていく事業 3
　１.「キャンプフェスタ 富士・朝霧」の実施
　２.「Gift for the Next 100 Years キャンププロジェクト
　　災害に遭った子どもたちのためのグリーフキャンプ」の着手
　３．アカデミー事業の実施
　４．キャンプ普及のための各種キャンペーンの実施
　５．キャンプインフォメーションセンターの運営
　６．会報誌「CAMPING」の発行
　７．WEBサイトの運用・メールマガジンの配信
　８．自然体験活動の場の提供と施設の運営

２）指導者養成に関する事業 12
　１．指導者養成講習会等の実施
　２．指導者の審査・認定
　３．指導者養成の増強及び制度の改善に関する検討と実施
　４．都道府県キャンプ協会の実施するBUCの認定と支援

３）調査・安全に関する事業 15
　１.「キャンプ研究」の発行
　２.「キャンプ白書」の発行
　３．国内外の情報の収集と提供
　４．出版事業

４）都道府県キャンプ協会との連携・協力に関する事業 17
　１．全国事務局担当者会の実施
　２．都道府県キャンプ協会の広報活動の支援
　３．キャンプ用品・用具の配備
　４．日本キャンプ協会の公益法人化に伴う、都道府県キャンプ協会の規約等の整備の支援

５）日本キャンプ協会設立45周年記念事業 18
　１.「キャンプフェスタ 富士・朝霧」の実施
　２.「キャンプ白書」の発行
　３．公益社団法人の申請
　４.「日本キャンプ協会 中期総合計画」の策定

６）法人運営に関する事業等 19
　１．公益社団法人への移行認定申請
　２．諸会議の開催
　３．各種団体等への協力・共催・後援
　４．総務事務

CAMPING AWARD 2011 受賞者 22

社団法人日本キャンプ協会平成22・23年度役員 25

社団法人日本キャンプ協会平成22・23年度専門委員 25

都道府県キャンプ協会一覧 27

平成２３年度事業総括

平成23年度は、3月中に行うべき平成22年度第2回総会が5月に延期を余儀なくされる等、3月11日に発生した東日本大震災の影響を大きく受けた年度となりました。

国内観測史上最大というマグニチュード9の振れと、それに伴う津波による被害の規模は想像を絶するものとなり、震災発生から1年以上経つ今日でも完全な復旧の見通しが立たない状態のところが数多く残されています。

この震災に対して、多くのキャンプの仲間がいち早く反応し、被災地へ赴いて救援活動をしたり、募金活動によって被災者や救援活動にあたる人々を支える活動が展開されました。また、海外のキャンプ協会やキャンプを行っている団体・個人からも懇切なお見舞いの言葉をいただいた上、多額の募金が寄せられるなど、人と人との“絆”が沢山の見える働きとなって広がって行きました。

そして、被災地の岩手、宮城、福島の各キャンプ協会でも自らの力でキャンプを企画・実施したり、被災した人々と共に新しい環境づくりに取り組む活動をすすめるなど、こういう時にこそのキャンプ力が発揮されたことは日頃の研鑽の結果と言えるでしょう。

しかし、未曾有の震災からのダメージは人々の心の中にも深い爪痕として残されており、キャンプで出来る回復への支援を考える中から、震災で両親を失った子どもたちの「グリーフキャンプ」の取り組みを始めることとしました。これは、息の長い関わりが必要なプロジェクトであり、多くの人的、資金的サポートが不可欠な事業であることも考慮し、(社福)朝日新聞厚生文化事業団及び(公財)日本YMCA同盟との協働プロジェクトとし、少なくとも5年間は行う事業としました。

こうした中で、日本キャンプ協会は設立45周年の年を迎え、キャンプが持っている様々な可能性や有用性をしっかりと次の世代に繋いでいくために、“Gift for the Next 100 Years”を合言葉にさまざまな記念事業を実施しました。

9月には本協会が指定管理者として管理・運営を行っている静岡県立朝霧野外活動センターにおいて、3泊4日の日程で「キャンプフェスタ 富士・朝霧」を実施しました。これは従来行ってきたいくつかの事業を集約的に行う試みの場となりました。

全国キャンプ大会、Camp Meeting in Japan、自然体験活動青年ミーティング、キャンプインストラクター養成講習会等々の事業に加えて、会報誌「CAMPING」の表紙を飾る村上康成氏の原画展や朝霧高原や周辺の地域に住む人々に対する施設開放等々を同じ施設の中で同時進行的に行うものでしたが、このような新しい事業運営の方法について考える良い機会となりました。

また、キャンプに関する幅広い情報や日本のキャンプの現状を紹介する「キャンプ白書」を発刊したほか、キャンプフェスタ 富士・朝霧の期間中に平成28年（設立50周年）をゴールとする「日本キャンプ協会中期総合計画」の中間報告が行われ、「時代のニーズに応える力を備え、元気に活動できる溌剌とした協会づくり」の基本路線が示されました。この計画は、平成24年3月に最終プランが公表されています。

先行きの見えづらい時代の中にあって、日本キャンプ協会はこの中期総合計画を基幹に据え、一層のキャンプムーブメントの拡大に向かって、日々の積み重ねをスタートすることとなりました。

2011年は1861年に北米のウイリアム・ガンによって始められたキャンプから数えて150年目に当たる年でしたが、奇しくも日本のガールスカウト運動の90周年、日本YMCAのキャンプ95周年、東京YWCAの野尻キャンプ80周年など、多くの団体の節目の年と重なりました。こうした長年にわたって組織キャンプを行ってきた団体がひとつとなって「出会いと体験の森へ」実行委員会を構成し、シンポジウムを開催しました。

これは150年に及ぶキャンプの歴史の中で、キャンプが社会に果たす役割を見つめなおし再確認する取り組みとして始められたものです。YMCA、YWCA、ボーイスカウト、ガールスカウトそして日本キャンプ協会の５者による共同プロジェクトとして実施された「キャンプで人は育つか？」というタイトルのシンポジウムには150人を超える人々が集い、熱い論議が交わされました。

上記のような事業を実施するための指導者の養成は例年同様にすすめてきましたが、新規指導者養成の減少は大きな課題です。このことについては指導者養成委員会を中心に会員増強という観点から指導者養成制度の改変に取り組みをはじめ、従来日本キャンプ協会のみが開催してきたキャンプディレクター2 級資格の認定講習会開催を各県協会や課程認定校にまで広げることとし、平成24年度より実施の方向を定めました。

このような制度的な改革は内部的なものに止まらず、懸案であった本協会の公益社団法人化の実現のための作業にも注力し、平成24年4月1日をもって公益社団法人日本キャンプ協会の登記を行うことができました。公益社団法人となることによって、今まで以上に公益性の高い事業展開に意を用いることが求められます。

日頃、自然の中で活動することを得意とする私たちではありますが、この1年は、私たちの想像をはるかに超えた自然の力を見せつけられ、本当に謙虚に自然と向き合うことの大切さを思い知らされるものとなりました。平成23年度も多くの方々の力に支えられて、様々な事業を行うことが出来たことを感謝申し上げるとともに、これからも皆様のご支援をお願い申し上げます。

１）キャンプの活動を社会に広め、発展させていく事業

日本キャンプ協会設立 45 周年を機に「人々の成長に影響を及ぼすキャンプの力」に改めて注目し、「Gift for the Next 100 Years」をキーワードに、キャンプの普遍的な価値を再確認するためのさまざまな事業を行った。

より多くの人々が集い、キャンプに触れる場として、従来の「全国キャンプ大会」や「Camp Meeting in Japan」の要素を取り込んだ「キャンプフェスタ 富士・朝霧」を実施した。また、「人を育てるキャンプ」に携わる他団体との連携を意図した取り組みを進め、「出会いと体験の森へシンポジウム」や「災害に遭った子どもたちのためのグリーフキャンプ」など、他団体との協働による新たな取り組みが始まった。

１.「キャンプフェスタ　富士・朝霧」の実施

日本キャンプ協会設立 45 周年事業のひとつとして、「キャンプフェスタ 富士・朝霧」を実施した。

期　日：平成 23 年 9 月 22 日(木)～25 日(日)
会　場：静岡県立朝霧野外活動センター(静岡県富士宮市)
参加者：宿泊参加数　220　　日帰り参加者数　約 1,500　　スタッフ数　35
後　援：文部科学省　(財)日本 YMCA 同盟　(公財)東京 YWCA　(公財)ボーイスカウト日本連盟
　　(社)ガールスカウト日本連盟
協　力：都道府県キャンプ協会　富士宮市冨士丘区　富士山 YMCA

主な内容

- スライド＆トーク「自然の厳しさとやさしさが語りかけるもの～富士山の懐に抱かれて～」
  YMCA 東山荘　プログラム主任　白鳥裕之氏
- 記念講演「自然の中で息をすることについて～絵本・自然・子ども・おとな～」
  絵本作家　村上康成氏
- 自主企画（各 75 分・のべ 36 コマ）
- チャリティオークション
- キャンプインストラクター養成講習会
- 村上康成の世界「CAMPING」原画展
- 交歓会
- アウティングプログラム（3 コース）
- 自然体験活動青年ミーティング
- Camp Meeting in Japan 2011(囲み記事参照)
- CAMPING AWARD 2011 贈呈式
- 全国事務局担当者会

キャンプフェスタ 富士・朝霧

Camp Meeting in Japan 2011 －第15回日本キャンプ会議－

国内・国外のキャンプの実践報告や研究発表を通じて、キャンプ・野外活動における新しい情報の共有化や指導者相互の交流を促す機会として、キャンプフェスタ 富士・朝霧のワークショップのひとつとして開催した。

［口頭発表］9題

- キャンプ指導者資格を取得した教員・保育者を対象とした意識調査の試み
- 女子短大生のキャンプ実習における他者との関わりが自己効力感の変容に及ぼす影響
- 静岡県立朝霧野外活動センター利用団体の教育効果（2）－3ヶ年調査結果の分析
- 日本の組織キャンプの始まりは1907年
  ～学習院乃木院長発案の片瀬海岸における天幕生活による3週間遊泳演習の事実～
- 野外救急法受講による緊急時に対する指導者心理への影響
- カンボジアにおける青少年教育とキャンプ現状
- キャンプ場の再生について
- 大学生の宿泊研修（野外活動）の現状と課題
- キャンプはプロスポーツに貢献できるのか　～Jリーグ冬季キャンプを事例として～

２.「Gift for the Next 100 Years キャンププロジェクト
災害に遭った子どもたちのためのグリーフキャンプ」の着手

東日本大震災では多くの尊い命が失われ、非常に多くの人がさまざまな喪失を体験した。この状況に対してキャンプに何ができるかを問い、北米での先行事例を参考に「グリーフキャンプ(悲嘆ケアを含むキャンプ)」に取り組むこととした。(社福)朝日新聞厚生文化事業団、(財)日本 YMCA 同盟との協働プロジェクトとして着手し、震災から1年が過ぎた3月に最初のキャンプを実施した。

◇先行事例の研究

- El Tesoro de la Vida 視察

  24 年の歴史を持つグリーフキャンプ「El Tesoro de la Vida」を視察し、運営方法を学んだ。

  期　日：平成23年7月30日(土)～8月6日(土)

  訪問先：Camp Fire USA First Texas Council
  (米国テキサス州フォートワース)

- Moyer Foundation 訪問

  北米約 40 か所でグリーフキャンプ「Camp Erin」を運営する財団のキャンプ担当者にインタビューを行い、運営方法、スタッフトレーニング等について学んだ。

  期　日：平成24年2月27日(月)

  訪問先：Moyer Foundation(米国ワシントン州シアトル)

・ 資料収集と文献調査

グリーフキャンプの先行事例ならびに子どもを対象としたグリーフケアに関する資料文献の収集と調査を行った。

◇周知のための取り組み

・ キャンプアカデミー2011　キャンプの力「グリーフケアとキャンプ」(平成 23 年 5 月 21 日)
・ 「キャンプフェスタ 富士・朝霧」における自主企画「グリーフキャンプ①」「グリーフキャンプ②」の実施(平成 23 年 9 月 23 日)
・ グリーフキャンプフォーラム「楽しむ場所、悲しむ場所としてのキャンプ～グリーフワークとしてのキャンプの可能性を考える～」(平成 24 年 2 月 11 日)
・ CAMPING での「Gift for the Next 100 Years」の連載(141 号～145 号)
・ 英文ニュース「Gift for the Next 100 Years Grief Camp Project for victims of The Great East Japan Earthquake UPDATE」の配信(8 回)
・ 「日本野外教育学会 関東支部研究会」(平成 23 年 6 月 18 日)、「第 9 回国際キャンプ会議 in 香港」(平成 23 年 11 月 6 日)等でのグリーフキャンプに関する報告

◇こどもキャンプ in 台湾(第 1 回グリーフキャンプ)

東日本大震災によって孤児になった子どもたち(朝日新聞厚生文化事業団の実施する「こども応援金」申し込み者)を対象に 4 泊 5 日のキャンプを実施した。

期　日：平成 24 年 3 月 25 日(日)～3 月 29 日(木)
会　場：東眼山自然教育センター(台湾桃園県)および国立台湾師範大学(台湾台北県)
参加者：8 歳から 18 歳の男女 10 人
主　催：(社)日本キャンプ協会　(財)日本 YMCA 同盟　(社福)朝日新聞厚生文化事業団
協　力：中華民国露營休閒車協会・行政院農委會林務局・國立台彎師範大學
(株)ロゴスコーポレーション・高島(株)(WOODS)

このキャンプは朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた寄付金を用いて実施しました。

グリーフキャンプ in 台湾

震災関連事業に対して多くの支援をいただいております

地震発生直後より復興支援事業のための寄付を募ったところ、国内外のキャンプ関係者より総額 3,808,082 円(平成 24 年 3 月末現在)の支援をいただきました。お預かりしたお金で福島県キャンプ協会が使用する放射能測定器を購入したほか、グリーフキャンプ実施に向けた調査・研修等に使わせていただいております。ご協力ありがとうございます。

国際キャンプ連盟の呼びかけで、3 万米ドルを超える寄付が世界中から寄せられました

３．アカデミー事業の実施

組織キャンプの考え方をベースに、キャンプによる社会貢献を考える機会となるようなシンポジウム、講習会等を他団体との協働も交えて実施した。

◇第１回「出会いと体験の森へ」シンポジウム「キャンプで人は育つか？」

期　日：平成 23 年 4 月 23 日(土)
会　場：三菱商事株式会社本社ビル(東京都千代田区)
参加者：180 人
主　催：「出会いと体験の森へ」実行委員会
実行委員会加盟団体
(社)日本キャンプ協会　(財)日本 YMCA 同盟　(公財)東京 YWCA
(公財)ボーイスカウト日本連盟会館　(社)ガールスカウト日本連盟
内　容：基調講演「キャンプで人は育つか？」　千葉大学教育学部教授　明石要一氏
パネルディスカッション

◇キャンプアカデミー2011　キャンプの力「グリーフケアとキャンプ」

期　日：平成 23 年 5 月 21 日(土)
会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
参加者：87 人
内　容：「被災地のいま」　くりこま高原自然学校代表　佐々木豊志氏
「グリーフケアとはなにか？」上智大学グリーフケア研究所　小西達也氏
対談「キャンプができる支援を考える」

◇グリーフキャンプフォーラム

「楽しむ場所、悲しむ場所としてのキャンプ～グリーフワークとしてのキャンプの可能性を考える～」

期　日：平成 24 年 2 月 11 日(土)
会　場：東京 YMCA 社会体育・保育専門学校(東京都江東区)
主　催：(社)日本キャンプ協会・(財)日本 YMCA 同盟・(社福)朝日新聞厚生文化事業団
参加者：45 人
内　容：「グリーフキャンプ・プロジェクトの概要」
「El Tesoro de la Vida 視察報告」
基調講演「Hole in the Wall Camps におけるグリーフキャンプの取り組み」
Trinity Childcare 代表　Terry Dignan 氏
対談「日本でグリーフキャンプを進めるために」
てとてとてとて代表　西田正弘氏　・　Terry Dignan 氏

「出会いと体験の森へ」シンポジウム

キャンプアカデミー「グリーフケアとキャンプ」

グリーフキャンプフォーラム
楽しむ場所、悲しむ場所としてのキャンプ

４．キャンプ普及のための各種キャンペーンの実施

野外での安全について一般に周知するためのキャンペーンを関係団体と協働で実施した。

◇セーフティアウトドアキャンペーン（7 月～8 月）の実施

自然体験活動を行う団体と協働して、セーフティアウトドアキャンペーンを実施した。

◇「キャンプの安全標語」募集と選定（6 月～9 月）

応募点数：1,981

最優秀作品「キャンプして学ぶ安全知る自然」
小田虎賢さん（兵庫県・23 歳）

優秀作品　「楽しいキャンプ　小さな注意の積み重ね」
藤田哲夫さん（愛媛県・67 歳）

安全標語の最優秀作品は会員証に印刷

５．キャンプインフォメーションセンターの運営

キャンプに関する相談窓口として、一般市民の相談に応じるとともに、指導者派遣を通じて他団体の事業の支援を行った。

◇キャンプインフォメーションセンター

電話や電子メールによる相談に応じたほか、都道府県キャンプ協会を通じた指導者派遣、マスコミ等の取材対応を行った

◇JOC（日本オリンピック委員会）への協力

ナショナルトレーニングセンター（東京都）でのエリートアカデミーに参加する子どもたちへ体験プログラムを提供した。

春のビクトリープログラム　Camp in Asagiri 2011
期　日：平成 23 年 5 月 13 日(金)～15 日(日)
会　場：静岡県立朝霧野外活動センター(静岡県富士宮市)
参加者：JOC エリートアカデミーに参加する 36 人
主　催：JOC エリートアカデミー

◇サンフレッチェ広島への協力

サンフレッチェ広島のジュニアスクール生へキャンププログラムを提供した。

サンフレッチェ広島スプリングスクール 2011
期　日：平成 23 年 3 月 30 日(水)～4 月 1 日(金)
会　場：広島市似島臨海少年自然の家(広島県広島市)
参加者：ジュニアスクールに所属する 61 人
主　催：サンフレッチェ広島

◇体験の風をおこそう運動「秋のキッズフェスタ」への協力

(独)国立青少年振興機構が中心となり、青少年団体に呼びかけて実施している「体験の風をおこそう運動」の事業に実施協力した。

第 2 回あつまれ！秋のキッズフェスタ
期　日：平成 23 年 10 月 22 日(土)
会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
参加者：一般市民約 1,100 人(子どもとその家族)
主　催：(独)国立青少年振興機構
協　力：(NPO)東京都キャンプ協会

６．会報誌「CAMPING」の発行

キャンプに関する細心の情報やさまざまなキャンプの現場で役立つ情報を掲載した会報誌「CAMPING」を隔月で発行した(各号約 20,000 部)。まだ経験の少ない指導者にも役立つよう、わかりやすい紙面作りを行った。

また、東日本大震災を受けて開始したグリーフキャンプ・プロジェクトの進捗状況を報告する目的で、連載「Gift for the Next 100 Years」を 141 号より開始した。

No.	発行月	特集	No.	発行月	特集
140	4 月/5 月	プログラムのつくりかた	143	10 月/11 月	Gift for the Next 100 Years
141	6 月/7 月	安全の文化を育てる	144	12 月/1 月	社会的意義
142	8 月/9 月	キャンプの力	145	2 月/3 月	夢

会報誌　CAMPING

連載「Gift for the Next 100 Years」

７．WEB サイトの運用・メールマガジンの配信

インターネットを活用して各種情報の提供を行った。

◇WEB サイトを通じた情報発信

日本キャンプ協会や各都道府県協会、関連団体の実施する事業の告知や報告、日本キャンプ協会の団体情報など、各種情報を WEB サイト(http://campinmg.or.jp)を通じて提供した。また、各都道府県キャンプ協会が WEB サイトを開設するためのサーバーの提供も行い、情報発信の支援を行った。

◇メールマガジン「CAMPING News」の発行

BUC 事業を中心に、キャンプに関連する学習機会を増やすことに役立つ情報の提供を行った。

発行回数：16 回(年末年始を除く 3 週毎の金曜日発行)

送 信 数：約 1,400(発行時による変動・別途 PDF 版を WEB サイトで公開)

８．自然体験活動の場の提供と施設の運営

朝霧野外活動センターの指定管理者として 5 年目となる本年度は、東日本大震災と静岡県東部地震による利用キャンセルの影響を受け、年間利用者は若干減少する結果となった。一方、日本キャンプ協会設立 45 周年の記念事業である「キャンプフェスタ 富士・朝霧」の会場として、全国から参加した多くの会員を受け入れたほか、周辺地域から多くの一般市民の参加もあり、日本キャンプ協会を静岡県民に広く知っていただく機会ともなった。

◇青少年自然体験事業

事業名	日程	対象	参加者数
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう富士山～	7 月 3 日(日)	小学校 5 年生～中学校 3 年生	48
	8 月 6 日(土) ～14 日(日)		48

◇社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	参加者数
ホッとキャンプ	3 月 8 日(火) ～9 日(水)	引きこもりがちな青少年	9

◇野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	参加者数
野外活動プログラム実習	4 月 15 日(金) ～16 日(土)	利用団体の担当者・指導者	88
	11 月 4 日(金)		7
長期キャンプ指導者 養成講習会	6 月 18 日(土) ～19 日(日)	大学生 短期大学生 専門学校生	14
	7 月 2 日(土) ～3 日(日)		
	8 月 6 日(土) ～14 日(日)		
	10 月 15 日(土) ～16 日(日)		
野外教育指導者養成講習会	2 月 10 日(金) ～12 日(日)	野外教育に興味のある人、 青少年団体の指導者、教育関係者	18

◇施設開放事業

事業名	日程	対象	参加者数
朝霧カーニバル	9 月 24 日(土)	一般	1,344
スケートフェスティバル in あさぎり	11 月 23 日(水)	家族・小グループ	222
プラネタリウム一般開放	原則毎月第 3 日曜日	家族・小グループ	3,296
スケート一般開放	11 月～3 月の原則日曜日	家族・小グループ	2,999

◇県民自然体験事業

事業名	日程	対象	参加者数
ちょっといい春感じませんか	4 月 23 日(土)～24 日(日)	家族・小グループ	97
朝霧高原トレイルランニングレース	9 月 3 日(土)～4 日(日)	一般	451
すてきな秋をあなたに	10 月 1 日(土)～2 日(日)	家族・小グループ	126
オリエンテーリング in 朝霧	11 月 26 日(土)～27 日(日)	家族・小グループ	269
スケートキャンプ	12 月 16 日(金)～17 日(土)	家族・小グループ	53
	1 月 13 日(金)～14 日(土)		57
	2 月 3 日(金)～4 日(土)		55
	3 月 9 日(金)～10(土)		50
２２３ウォーキング	2 月 23 日(木)	家族・小グループ	102

◇静岡県助成事業

事業名	日程	対象	参加者数
しずおかみんな de キャンプ (焼津・三ヶ日・朝霧・観音山の 4 会場)	10 月 7 日(金)～10 日(月) 11 月 10 日(木)～13 日(日) 1 月 5 日(木)～9 日(月) 2 月 16 日(木)～19 日(日)	不登校傾向にある児童・生徒	59

本館棟利用者数の推移

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
21 年度	4,009	5,728	3,466	6,193	5,030	3,414	3,654	8,196	2,328	2,229	2,331	3,773	50,351
22 年度	3,308	5,156	4,825	5,807	6,326	4,665	4,522	8,004	2,134	2,256	2,374	569	49,946
23 年度	1,692	4,217	5,178	6,083	4,470	5,674	4,302	2,628	2,649	2,624	2,190	3,630	45,337

キャンプ場利用者数の推移

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
21 年度	157	3,428	1,527	2,247	4,314	2,682	1,083	968	409	352	298	726	18,191
22 年度	124	2,998	1,880	2,298	5,270	3,013	1,202	1,214	355	673	179	76	19,282
23 年度	84	2,081	1,961	2,280	3,935	4,359	956	176	529	485	173	893	17,912

２）指導者養成に関する事業

本年度は、より多くのキャンプ指導者が次のステップに進めるよう、制度やシステムの整備を重点的に進めた。キャンプディレクター2 級については、受講機会の拡大と受講者の増員を図るため、マネジメントディレクター・コースの課程認定団体(B 団体)における養成の試行を開始した。また、プログラムディレクター・コースについては、都道府県キャンプ協会(A 団体)主催での養成が行うための検討をし、平成 24 年度に試行すべく準備を進めた。

１．指導者養成講習会等の実施

◇キャンプインストラクター養成講習会（課程認定団体による実施）

都道府県キャンプ協会(A 団体)による養成数	443
大学・短大・専門学校・社会教育団体等(B・C 団体)による養成数	2,421
合　計	2,864

・4,000 人の養成目標に対し、達成率 72%であった。
・昨年の 3,421 人と比較し、16%の減であった。

◇キャンプディレクター2 級(プログラムディレクター)養成講習会

	日程	受講者数	会場
埼玉	11 月 18 日(金) ～20 日(日)	19	埼玉県立名栗げんきプラザ
大阪	1 月 20 日(金) ～22 日(日)	18	大阪府立少年自然の家

◇キャンプディレクター2 級(マネジメントディレクター)養成講習会

	日程	受講者数	会場
大阪	1 月 21 日(土) ～22 日(日)	10	大阪府立少年自然の家
東京	2 月 18 日(土) ～19 日(日)	19	国立オリンピック記念青少年総合センター

※別途、課程認定団体(B 団体)13 校による養成も行われた。(14 ページ参照)

◇キャンプディレクター1 級養成講習会

	日程	受講者数	会場
東日本	10 月 7 日(金) ～10 日(月)	13	国立中央青少年交流の家
西日本	11 月 3 日(木) ～6 日(日)	中止	-

◇キャンプディレクター１級検定会

	日程	受検者数	会場
東日本	1 月 14 日(土) ～15 日(日)	11	国立オリンピック記念青少年総合センター
西日本	1 月 28 日(土) ～29 日(日)	3	大阪府立少年自然の家

キャンプディレクター養成講習会

２．指導者の審査・認定

◇資格申請者の審査・認定

認定日	キャンプインストラクター		キャンプディレクター2 級		キャンプディレクター1 級	
	受験者数	合格者数	申請者数	合格者数	申請者数	合格者数
4 月 27 日			9	9	1	1
6 月 29 日			7	7		
9 月 7 日			4	4		
10 月 20 日			1	1	1	1
12 月 3 日			13	13		
1 月 25 日			2	2		
3 月 12 日			31	31	13	13
3 月 31 日			29	29	1	1
課程認定団体養成分	2,864	2,864				
合計	2,864	2,864	96	96	16	16

◇指導者資格の更新

キャンプインストラクター	キャンプディレクター2 級	キャンプディレクター1 級	合計
5,481	2,038	1,037	8,556

◇課程認定団体の審査・認定

課程認定審査会を実施し、新規の課程認定団体の審査を行った。

審査会日程	団体名	
6 月 29 日	B団体	学校法人美芸学園美芸学園専門学校（北海道） 大原スポーツ公務員専門学校（長野県） 大原スポーツ公務員専門学校高崎校（群馬県） 神奈川大学人間科学部（神奈川県） 宇都宮共和大学（栃木県）

平成 23 年度課程認定団体数

A団体	B団体	C団体
46	122	7

◇課程認定団体の連絡調整

・ 課程認定団体(A・B・C 団体)の養成担当講師を対象に研修会を実施し、キャンプインストラクター養成事例の紹介、事務連絡等を行った。

日程	会場	団体数	参加者数
5 月 21 日(土)	国立オリンピック記念青少年総合センター	50	63

・ 課程認定団体(B 団体)のうち、キャンプディレクター2 級(マネジメントディレクター)養成の実施を申請した団体に対し、養成担当講師の研修会を実施した。

日程	会場	団体数	参加者数
5 月 21 日(土)	国立オリンピック記念青少年総合センター	13	16

◇認定証、資格章(バッジ)等の作成

指導者の認定に伴い、認定証、資格章(バッジ)、登録用紙を作成した。

３．指導者養成の増強及び制度の改善に関する検討と実施

指導者養成の増強のため、上級資格の講習会受講機会を増やしたり、新しいキャンプインストラクター養成講習会の受講方法を設けたりするための検討を進め、試行を含め実施した。

◇キャンプディレクター講習会の内容に関する検討

キャンプディレクター講習について、受講しやすさを高めたり、受講機会を増やしたりするための見直しを行った。キャンプディレクター1 級養成講習会については、講義時間数を変えずに日程を 4 泊 5 日から 3 泊 4 日(3 連休を含む 4 日間)に変更し、受講しやすくした。キャンプディレクター2 級(プログラムディレクター)養成講習については、都道府県キャンプ協会(A 団体)主催で実施できるよう、課題の整理とその対応策を検討し、平成 24 年度に試行することとした。

◇キャンプディレクター2 級(マネジメントディレクター)養成の課程認定団体での試行

キャンプディレクター2 級(マネジメントディレクター)を課程認定団体(B 団体のみ)で実施できるよう、2 年間の試行を開始した。本年度は 13 団体で養成を行った。

対象課程認定団体　13 団体
北翔大学(北海道)、仙台大学体育学部(宮城県)、千葉大学教育学部(千葉県)、日本大学文理学部(東京都)、田園調布学園大学(神奈川県)、国際自然環境アウトドア専門学校(新潟県)、愛知教育大学(愛知県)、桃山学院大学(大阪府)、関西学院大学(兵庫県)、福山 YMCA 国際ビジネス専門学校(広島県)、九州共立大学(福岡県)、福岡大学スポーツ科学部(福岡県)、熊本 YMCA 学院(熊本県)

◇キャンプインストラクター養成と他の主催事業との連携

9 月に実施した「キャンプフェスタ 富士・朝霧」と併行して、キャンプインストラクター養成講習会を開催した。16 名が受講し、集合研修と受講生が自由に選択するプログラムを組み合わせた養成方法を試行した。

４．都道府県キャンプ協会の実施する BUC の認定と支援

研鑽と交流の機会として日本キャンプ協会及び都道府県キャンプ協会が実施する事業のうち、条件を満たすものについて BUC(Brush Up & Communication)事業として認定し、必要に応じて事業実施のための支援を行った。本年度は東日本大震災や台風などの影響を受けて、BUC 事業数・参加登録者数ともに若干減少したが、事業ごとの参加者は増加傾向にある。

年度	BUC 事業数	参加登録者数	事業実施協会数(県協会＋NCAJ)
23 年度	109	1,477	37+1
21 年度	123	1,397	41+1
22 年度	119	1,357	40+1

各地で行われたＢＵＣ事業

３）調査・安全に関する事業

日本キャンプ協会の実施する事業に対する理解をより深めることができるよう、「キャンプ研究」に特集を設けるなどの改善を行うとともに、WEB サイトでの公開を行い、全ての会員が読むことができるようにした。また今年度は、協会設立 45 周年記念事業の一環として、新たな試みとなる「キャンプ白書」を発行した。さらに国際キャンプ会議での発表も積極的に行い、国外のキャンプ関係者との情報交流にも努めた。

１.「キャンプ研究」の発行

国内外のキャンプ実践者や研究者の成果発表の場としてだけでなく、キャンプの情報を伝える研究誌として内容を見直し、「キャンプ研究　第 15 巻」を発刊した。

発 行 日：平成 24 年 1 月 31 日(火)
発行部数：1,380 部(別途 PDF 版を WEB サイトで公開)

［特　　集］
・子どもたちの悲しみを支えるということ
　　～グリーフキャンプの試みにむけて～
・東日本大震災の被災者を対象とするグリーフキャンプの取り組み

［実践報告］
・キャンプ指導者資格を取得した教員・保育者への意識調査の試み
・大学生の宿泊研修(野外活動)の現状と課題
・カンボジアにおける青少年教育とキャンプの現状
・Hole in the Wall Camps ～病児キャンプの世界的ネットワーク～

キャンプ研究　第 15 巻

２.「キャンプ白書」の発行

キャンプに関連する幅広い情報を集めたものとして、会員の携わるキャンプの状況や各種調査、さまざまな関連資料からみる日本のキャンプの現状を紹介する「キャンプ白書 2011」を設立 45 周年記念事業の一環で発行した。

発 行 日：平成 23 年 9 月 22 日(木)
発行部数：1,500 部

［主な内容］
・ (社)日本キャンプ協会公認指導者が関わる組織キャンプの実態
・ 我が国におけるキャンプの現状
　　キーワード１「ひと」
　　キーワード２「モノ・カネ」
　　キーワード３「効果」
　　キーワード４「安全」
・ 日本キャンプ協会のこれまでとこれから

キャンプ白書 2011

３．国内外の情報の収集と提供

香港で行われた第 9 回国際キャンプ会議、第 4 回アジア・オセアニア・キャンプ会議では、日本の参加者が複数の分科会等を担当し、情報交流に努めた。また、アメリカキャンプ協会の年次大会などの機会をとらえて、情報収集、打ち合わせを行い、グリーフキャンプ等の事業につなげた。

◇第 9 回国際キャンプ会議、第 4 回アジア・オセアニア・キャンプ会議

期　日：平成 23 年 11 月 4 日(金)～8 日(火)
会　場：香港中華 YMCA 烏渓沙青年新村(香港)
参加者：世界 20 か国約 350 人　日本からの参加者 35 人

［発　　表］

- 公文教育研究所の実施する English Immersion Camp について(篠原辰治/Mazhar Binabdulhamid)
- Camp, for what?(針ヶ谷雅子)
- クラフト・ロープワーク等のワークショップ
- AOCF シンポジウムにおける日本のキャンプの状況の発表(永吉宏英)
- グリーフキャンプ・プロジェクト経過報告(金山竜也)

◇アメリカキャンプ協会年次大会への参加

期　日：平成 24 年 2 月 21 日(火)～24 日(金)
会　場：ハイアットリージェンシー・アトランタ(米国ジョージア州)

◇アジア・オセアニア・キャンプ連盟事務局の運営

アジア・オセアニア・キャンプ連盟の事務局としてホームページを通じた情報提供等を行った。(平成 23 年 11 月まで・以降はオーストラリアキャンプ協会へ移管)

４．出版事業

指導者養成のテキストの販売管理を行った。

◇「キャンプ指導者入門」「キャンプディレクター必携」の販売および管理
◇ISBN コードの管理

第 9 回国際キャンプ会議・第 4 回アジア・オセアニア・キャンプ会議 in 香港

４）都道府県キャンプ協会との連携・協力に関する事業

キャンプ普及の直接的な担い手である都道府県キャンプ協会の活動を支援するためのさまざまな事業を実施した。また、日本キャンプ協会の公益法人化に伴う各協会の規約変更のための情報提供等を行った。

１．全国事務局担当者会の実施

第１回　期　日：平成 23 年 5 月 22 日(日)
　　会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
第２回　期　日：平成 23 年 9 月 25 日(日)
　　会　場：静岡県立朝霧野外活動センター(静岡県富士宮市)
第３回　期　日：平成 24 年 3 月 25 日(日)
　　会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

２．都道府県キャンプ協会の広報活動の支援

◇会報同封サービス

各協会が発行する会報等を「CAMPING」に同封して発送することで、安価な情報発信の手段を提供し、各協会の広報活動を支援した。

利用した都道府県協会数　24　　のべ点数　42,086

◇IT 環境整備の支援

各協会が利用できる WEB サイト用のサーバーやメール環境を提供し、インターネットを活用した情報発信を支援した。

３．キャンプ用品・用具の配備

安全で楽しいキャンプを普及させるため、(財)日本宝くじ協会より助成を受け全国の都道府県キャンプ協会に対してテントの配布を行った。これらのテントは都道府県協会が主催する各種講習会、指導者研修、キャンプなどで幅広く活用されるとともに、都道府県協会を通じて、加盟団体などが行うイベント等にも貸出され、有意義に使用された。

配布件数　31 協会　3 種 64 張

宝くじ協会の助成で配備したイベント用テント

４．日本キャンプ協会の公益法人化に伴う、都道府県キャンプ協会の規約等の整備の支援

日本キャンプ協会の公益法人化に伴って必要となる諸手続を都道府県キャンプ協会が円滑に行えるよう、支援を行った。

５）日本キャンプ協会設立 45 周年記念事業

日本キャンプ協会の設立 45 周年を記念して「キャンプフェスタ 富士・朝霧」等の特別事業を行うとともに、持続可能な発展を目指して中期総合計画の策定と公益社団法人の申請手続きを行った。

１.「キャンプフェスタ 富士・朝霧」の実施

従来の全国キャンプ大会に Camp Meeting in Japan や自然体験活動青年ミーティング等の要素を加えた全国規模の事業として、「キャンプフェスタ 富士・朝霧」を実施した。(3 ページ参照)

期　日：平成 23 年 9 月 22 日(木)～25 日(日)
会　場：静岡県立朝霧野外活動センター(静岡県富士宮市)
参加者：宿泊参加 220 人　　日帰り参加約 1,500　　スタッフ 35 人
後　援：文部科学省　(財)日本 YMCA 同盟　(公財)東京 YWCA
　　(公財)ボーイスカウト日本連盟　(社)ガールスカウト日本連盟
協　力：都道府県キャンプ協会　富士宮市冨士丘区　富士山 YMCA

２.「キャンプ白書」の発行

キャンプに関連する幅広い情報を集めたものとして、会員の携わるキャンプの状況や各種調査、さまざまな関連資料からみる日本のキャンプの現状を紹介する「キャンプ白書 2011」を発行した。(15 ページ参照)

発 行 日：平成 23 年 9 月 22 日(木)
発行部数：1,500 部

３．公益社団法人移行認定申請

平成 24 年度より公益社団法人に移行すべく申請を行ったところ、以下の通り認定された。(19 ページ参照)

認定：平成 24 年 3 月 21 日(水)
移行：平成 24 年 4 月 1 日(日)

４.「日本キャンプ協会 中期総合計画」の策定

公益法人化を経て、協会設立 50 周年へ向かう日本キャンプ協会のあるべき将来像を示すものとして、中期総合計画を策定した。「キャンプ協会事業の訴求力の向上を図る」「協会組織の整備を行い、都道府県協会・関係団体との連携を強化する」「活動を支えるさまざまな会員層の拡大を図る」の 3 点を骨子とする本計画は、協会設立 50 周年の平成 28 年度をゴールとする協会運営の指針となるものである。

６）法人運営に関する事業等

日本キャンプ協会の事業が適正に行われるよう、また都道府県キャンプ協会及び関係団体との円滑な協働が図れるよう、必要な日常業務を行った。

１．公益社団法人への移行認定申請

平成 20 年 12 月 1 日施行の公益法人制度改革 3 法に基づき、平成 23 年 12 月 20 日付で内閣府に対し公益社団への移行認定申請を行った。その後、内閣府との補正・修正作業を行い、平成 24 年 3 月 7 日の公益認定等委員会での審議を経て、同年 3 月 9 日同委員会から内閣総理大臣への公益認定の答申がなされ、同月 21 日、内閣府より公益社団法人としての「認定書」を受領した。

平成 24 年 4 月 1 日、旧法人の解散登記及び新法人の設立登記を行い、公益社団法人への移行を完了した。

２．諸会議の開催

会議名	回数	日程・会場等
総会	2	5 月 21 日・3 月 24 日
理事会	3	5 月 21 日・3 月 10 日・3 月 24 日(臨時)
常務会	8	4月10日・8月17日・10月16日・11月21日・12月12日・1月25日・2月17日 3月9日
運営会議	4	5 月 16 日・7 月 25 日・12 月 12 日・3 月 10 日
会計監査	1	5 月 18 日
全国事務局担当者会	2	5 月 22 日・3 月 25 日
都道府県協会 ブロック会議	8	全ブロック　5月22日・3月25日　東京（NYC） 近畿ブロック　7月10日　京都府京都市 北海道・東北ブロック　10月23日　福島県耶麻郡猪苗代町 中部・北陸ブロック　10月29日　岐阜県高山市 関東ブロック　11月19日-20日　群馬県渋川市 九州・沖縄ブロック　12月4日　長崎県大村市 中国・四国ブロック　1 月 28 日　鳥取県西伯郡大山町

専門委員会

会議名	回数	日程・会場等
総務委員会	8	4月10日・8月17日・10月16日・11月21日・12月12日・1月25日・2月17日 3月9日　（常務会と同時実施）
普及・CAMPING 編集	5	4月18日・7月4日・1月3日(飯田橋)・12月3日-4日・3月6日
普及・アカデミー	1	5月21日
普及・Camp Meeting	1	9月24日
指導者養成・養成	4	4月27日・6月29日・9月7日・12月3日-4日(御殿場)
指導者養成・増強	4	7月3日・8月23日・10月20日・12月3日-4日(御殿場)
調査安全委員会	3	5月24日・10月4日・12月13日

特別委員会

会議名	回数	日程・会場等
朝霧 2011	7	4月18日・5月9日・6月27日・7月22日・9月5日(飯田橋) 9月22日(朝霧)・10月24日
キャンプ白書	1	6月23日
中期総合計画	6	4月10日・5月12日・7月10日・8月2日・10月13日・11月17日
公益法人化	1	10月16日

その他の会議

会議名	回数	日程・会場等
創立式典	3	9月18日(石川県)・10月22日(福島県)・11月27日(大阪府)
事務局会議		随時・8月18日(終日)
出会いと体験の森へ実行委員会	2	4月8日・3月22日
野外活動団体連絡協議会	1	7月28日
グリーフキャンプ実行委員会	2	7月12日(福島県)・3月12日

静岡県立朝霧野外活動センター関係

会議名	回数	日程・会場等
所長会	11	4月7日・5月23日・6月14日・7月6日・9月8日・10月21日・11月11日 12月16日・1月19日・2月8日・3月6日
県庁合同会議	1	4 月 26 日
安全対策委員会	4	9 月 9 日・10 月 12 日・2 月 16 日・3 月 6 日
外部評価委員会	3	7 月 12 日・8 月 9 日・3 月 27 日(評価伝達式)
全青施協所長会	1	2 月 10 日-11 日
静青施協合同職員研修会	1	1 月 26 日-27 日
地域懇談会	1	11 月 5 日
食堂定期協議会	1	10 月 22 日

※ 特に表記のない場合、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター(NYC)で実施 (朝霧野外活動センター関係を除く)

３．各種団体等への協力・共催・後援

団体名	期間	事業名	種別
(公財)修養団	7/24-8/25	子ども自然体験キャンプ	後援
(公財)修養団	7/24-7/28	全国自然体験リーダー養成キャンプ	後援
(公財)修養団	5/1-3/31	幸せの種まきキャンペーン	後援
(公財)修養団	3/31-4/5	青年ボランティア・アクション in 福島	後援
(公財)修養団	10/8-10/10	全国青年ボランティア・フェスティバル	後援
(公財)修養団	5/1-3/10	子どもボランティア週末体験活動推進会議	後援
(公財)修養団	5/1-3/10	子どもボランティア週末体験実践活動	後援
(公財)修養団	8/23-8/29	青年ボランティア･アクション in フィリピン	後援
(公財)修養団	2/11	SYD ボランティア奨励賞	後援
㈿)キャンピズ	8/24-8/27	学研サマーキャンプ	後援
京都府キャンプ協会	7/10	キャンプソングコンサート	後援
(財)日本教育科学研究所	10/7-10/9	アウトドアゲーム指導法講習会	後援
(財)日本サイクリング協会	9/3-9/4	2011 Mt. FUJI エコサイクリング	後援
(財)日本サイクリング協会	9/8	2011 東京シティサイクリング	後援
(公財)日本レクリエーション協会	9/23-9/25	第 65 回全国レクリエーション大会	協力
㈿)東京都キャンプ協会	10/1-10/2	平成 23 年度東京キャンプフェスティバル 2011	後援
環太平洋学生キャンプ	7/30-8/14	第 27 回環太平洋学生キャンプ	後援
岩手県キャンプ協会	9/17-9/19	第 38 回キャンプインストラクター養成講習会	共催
2011 リスクマネジメントセミナー実行委員会	12/11	2011 リスクマネジメントセミナー	後援
(社福)朝日新聞厚生文化事業団	9/23-9/25	ピア・キャンプ 2011	後援
ICF Friends in Japan	12/4	ICFFJ＆東京 YWCA ワークショップ 誰でも出来るマジック！ & ICC&AOCC2011 報告	後援
(社)日本建築家協会近畿支部	3/24	屋外空間におけるユニバーサルデザインの新たな挑戦	協賛

４．日常総務事務

円滑な事業推進のため、以下の日常業務を行った。

会員管理／会費収納／事業方針・計画・予算の管理／日常経理事務／収益事業の運営管理／助成金事務／人事管理／諸規定(程)の整備／他団体との窓口

本報告書内の法人名・各人の役職等は、各事業実施当時のものです。

CAMPING AWARD 2011 受賞者

小畑　敬三郎（おばた けいさぶろう）さん　秋田県キャンプ協会

秋田県キャンプ協会の設立に関わるとともに、会設立から現在まで、長年にわたり副会長として会の運営と発展に貢献された。また、キャンプインストラクター養成課程認定校の担当講師としてCI養成の傍ら、会員の指導の場を開拓に力を注がれた。一方、地域スポーツの指導者として秋田県の体育振興にも深い関わりを持ち、全国的視野に立った情報提供に加え、生涯スポーツとしてのキャンプ活動の普及に大きな力を示された。

安藤　勝（あんどう まさる）さん　茨城県キャンプ協会

茨城県キャンプ協会創立の際には、県内外の野外活動指導者の中心的存在として活動してきた実績により、まさに原動力となって尽力された。現在は、茨城県キャンプ協会の副会長を務め、温容で､野外活動に積極的に取り組む姿勢は､常に他の会員の模範となっている。平成 21 年度からは、県立里美野外活動センターを本県キャンプ協会が指定管理者として運営するにあたり、情報収集、指導展開といった分野で幅広く活躍されている。

野村　徹（のむら とおる）さん　栃木県キャンプ協会

平成 2 年に栃木県キャンプ協会に加入以来、本会の主催する自然生活体験キャンプを中心として、キャンプカウンセラー、プログラムディレクター、ビジネスマネジャー、キャンプディレクターなど全ての役割を務めてこられた。特にBSとして設営、撤収、装備、安全管理といった裏方の仕事を確立した功績は計り知れないものがある。平成 12 年から理事として協会運営に参画され、平成 22 年には理事長に就任、現在に至っている。

塚原　孝治（つかはら こうじ）さん　(NPO)埼玉県キャンプ協会

NPO法人埼玉県キャンプ協会の専務理事及び事業部長として協会の様々な事業の運営に、常に中心的役割を果たしてこられた。長い間に築かれた幅の広い人脈によって、多様な分野の人々を結び合わせ、キャンプに止まらない有言実行の人として多くの人々の篤い信頼を得ておられる。埼玉県キャンプ協会が教育委員会との共催で行う「県民ファミリーキャンプ」の企画・運営等についても要所を押さえたリーダーシップが随所に散見される。

杉山　俊一（すぎやま としかず）さん　(NPO)千葉県キャンプ協会

NPO法人千葉県キャンプ協会の理事として、会員が運営するキャンプ場を拠点としたプログラム指導や市のキャンプ協会が開催する地域イベントの開催、活動に関する相談や支援など、キャンプに関心を持つ人達への多方面にわたる働きかけの中心的な存在として大きな責任を果たしておられる。東日本大震災直後に、自身のネットワークを生かして、県内の被災地への支援を行うなど、社会貢献活動の面でも特筆すべき働きをしておられる。

伊藤　建夫（いとう たてお）さん（故人）　(NPO)東京都キャンプ協会

東京都キャンプ協会の変革期に、事務局長を務められ、現在の NPO 法人東京都キャンプ協会の土台を築きあげたお一人である。ドゥ・アウトドア・ライフ研究所長、都レク学院教授、専門学校講師として、多くの若者たちや子どもたちの指導に情熱をささげられた。また、相模湖ピックニックランド・キャンプ場長として、現在の第一線でキャンプの普及活動をしている人たちに大きな影響を与えてこられたが、2011 年 1 月 3 日他界された。

舟橋　弘（ふなはし ひろむ）さん　愛知県キャンプ協会

学生時代から行っていたキャンプ指導及び運営の豊富な経験を生かし、愛知県キャンプ協会創立に尽力され、理事、理事長を歴任された。特に平成 15 年には理事長として「第 13 回全国キャンプ大会 in 愛知」を成功に導くなど、長きに亘り協会の的確な舵取り役としてリーダーシップを発揮してこられた。2009 年より愛知県キャンプ協会会長として、2 年後に迎える設立 30 年に向けた協会の更なる発展のために力を注いでおられる。

吉田　穂積（よしだ ほづみ）さん　京都府キャンプ協会

若い頃からユースホステル活動やキャンプ活動においてリーダーとして活躍され、昭和35年に行われた大阪市教育委員会主催の教育キャンプ指導者講習会の受講を契機に、本格的にその取り組みを始められた。京都府キャンプ協会には昭和60年に入会され運営委員会の副委員長として、毎月の会員研修の企画、実務担当者として委員長を支え、後進の指導にも意を用いるなど今日の京都府キャンプ協会の発展の一翼を担われた。

大阪体育大学 野外活動部　大阪府キャンプ協会

大阪体育大学野外活動部は、1969年11月「野外活動研究会」として発足以来、学校教育を始め、競技スポーツや生涯スポーツの教員・指導者を目指す学生に対し「鍛える」「広める」野外活動を通じて社会に貢献できる人材育成に、40有余年にわたって取り組まれている。また、地域社会の要請に応じ、小・中学生のキャンプ事業高齢者のレクリエーション活動の機会提供に取り組むなど、その地域交流社会貢献活動は顕著なものがある。

天理教少年会　奈良県キャンプ協会

天理教少年会は次代を担う人材育成を目的として昭和41年に設立された。奈良県キャンプ協会には発足当時から団体会員として参画され、活動としては育成者の指導、毎年7月に天理市で約30万人が参加する「こどもおぢばがえり」をはじめ、全国で行う地域への奉仕活動、子供会、おとまり会、鼓笛活動、野外活動などがある。天理教青少年野外活動センター「さんさいの里」は本年で40周年を迎え、野外活動の中心的機能を果たしている。

藤井　浩（ふじい ひろし）さん　広島県キャンプ協会

広島県キャンプ協会の設立に尽力され、初代事務局長に就任。平成 9 年には、実務の責任者として理事長に就任して現在に至るキャンプ指導の第一人者である。時代の変化に沿ったキャンプ活動の推進や、指導者の育成等に奔走してこられた。その間検定委員として指導者の質の向上に努めるとともに、指導者資格が文部大臣事業認定資格に移行する際にもスムーズな対応を果たされ、今日の組織基盤の確立を果たされた功績は大きい。

西山　徹（にしやま とおる）さん　香川県キャンプ協会

昭和54年より57年まで香川県五色台野外活動センターで専門職員として小・中学校の教職員の指導にあたりキャンプの普及に務められた。平成9年より香川県キャンプ協会の理事長として本協会の企画・運営の中心となり、本県キャンプの普及発展に貢献してこられた。また、香川県教育委員会主催の生涯スポーツ指導者研修会の講師として活躍する傍ら、「香川県キャンプ協会40年の歩み」の編纂に際しては編集長として重責を果たされた。

百済　里美（ひゃくさい さとみ）さん　　愛媛県キャンプ協会

1995年、キャンプインストラクター資格取得と同時に愛媛県キャンプ協会の事業スタッフとして参画され、協会の主催するほとんどの行事のコアメンバーとして活動。愛媛県下におけるキャンプ活動の普及に多大な貢献をされた。一方、長年に亘って子どもを対象とした通年事業の「エコクラブ」を主宰され、各種の野外活動全般の健全発展にも力を注がれておられる。

辻　道行（つじ みちゆき）さん　　長崎県キャンプ協会

長崎県キャンプ協会の副会長として、キャンプの普及に力を注ぎつつ、後継者の育成に尽力されている。長崎県立西彼青年の家の所長として、長崎県内外の青少年の健全育成に深く関わってこられた。また、たくさんのアウトドア活動のプログラムを生かした青年の家の主催事業には、いつも子どもから大人まで、誰でもが楽しむ姿が見られ、多くのファンの心をつかんだ事業の運営には他の追随をゆるさないものが覗える。

中山　良正（なかやま りょうせい）さん　　(NPO)沖縄県キャンプ協会

大学卒業後ボーイスカウト沖縄県委員会事務局長に就任され、以来45年余同運動の発展のために尽力してこられた。昭和60年に請われて沖縄県キャンプ協会副会長に就任。現在に至るまで沖縄県キャンプ協会発展のため、特に財政面を担当し大きな苦労を担ってこられた。また、ボーイスカウト、ガールスカウト、YMCAの3組織が協力して沖縄県キャンプ協会の運営、発展を図るという組織体制を構築したことは同氏の功績によるものである。

吉水　泰彦（よしみず やすひこ）さん　　(社)日本キャンプ協会

大阪府立総合青少年野外活動センター所長、大阪府立青少年会館館長、財団法人大阪府青少年活動財団事業部長、同財団理事等を歴任。1987年より20年間にわたり日本キャンプ協会の理事を務められ、一貫して組織キャンプの普及・発展、指導者育成に大きな力を注がれた。学生時代に学んだグループワークと国内、国外での豊富なキャンプ体験を基に多くの人材が氏の元から輩出し、薫陶を受けた人々が現在の関西のキャンプをリードしている。

Gift　for　the　Next　100　Years

社団法人日本キャンプ協会　平成22・23年度　役員

名誉会長	酒井　哲雄	頌栄保育学院 学院長
顧　問	斉藤　保夫	元 城西大学 教授
顧　問	富岡　幸生	(財) 日本健康開発財団 専任講師
顧　問	野間口　英敏	元 東海大学 教授
顧　問	長谷川　純三	(社) 日本オートキャンプ協会 会長
会　長	野澤　巖	元 埼玉大学 教授
副会長	鳥井　信吾	サントリーホールディングス(株) 代表取締役副社長
副会長	永吉　宏英	大阪体育大学 学長
専務理事	星野　敏男	明治大学 教授
常務理事	石田　易司	桃山学院大学 教授
常務理事	神﨑　清一	(財) 日本YMCA同盟 全国総主事会会長
理　事	市橋　郁夫	岐阜県キャンプ協会 理事（中部・北陸）
理　事	尾﨑　裕美子	(公財) 東京YWCA総幹事
理　事	郭　麗月	かく・にしかわ診療所 医師・心斎橋心理療法センター 代表
理　事	木村　公一	(公財) ボーイスカウト日本連盟 総務部長
理　事	桑田　千照	兵庫県キャンプ協会 会長（近畿）
理　事	後藤　信郎	(NPO) 東京都キャンプ協会 事務局長（関東）
理　事	佐藤　初雄	(NPO) 国際自然大学校 代表
理　事	守随　純子	(社) ガールスカウト日本連盟 副会長
理　事	大天　嘉行	岡山県キャンプ協会 会長（中・四国）
理　事	高野　孝子	(NPO) エコプラス 代表
理　事	辻　道行	長崎県キャンプ協会 副会長（九州・沖縄）
理　事	平野　吉直	信州大学 教授
理　事	松前　雅明	福島県キャンプ協会 事務局長（北海道・東北）
理　事	吉田　大郎	(社) 日本キャンプ協会 事務局長
監　事	片岡　敬一	(公財) 日本レクリエーション協会 総務部長
監　事	錦織　一郎	大阪女学院 副理事長
監　事	林　寿夫	(株) 野外計画 代表取締役

社団法人日本キャンプ協会　平成22・23年度　専門委員

青木　康太朗	特別委員会（キャンプ白書）	北翔大学 講師
浅野　修	普及（CAMPING編集）	(財) 仙台観光コンベンション協会
池畑　亜由美	指導者養成（養成）	女子美術大学 非常勤講師
石川　裕光	普及（朝霧）	おにし青少年野外活動センター 所長
井戸　綾子	調査安全	びわこ成蹊スポーツ大学 講師
稲葉　秀實	普及（朝霧）	フリーランス
今井　正裕	指導者養成	(財) 大阪府青少年活動財団 育成事業部長
遠藤　知里	指導者養成(養成)	常葉学園短期大学 講師
大浦　秀樹	普及（CAMPING編集）	(公財) ボーイスカウト日本連盟 教育部課長
太田　恒義	普及（朝霧）	常葉学園大学 教授
太田　正義	特別委員会（朝霧2011）	(NPO) 子どもの体験活動サポートセンター 理事長
岡村　泰斗	特別委員会（朝霧2011）	フリーランス
甲斐　知彦	調査安全	関西学院大学 教授

片岡　麻里	指導者養成(増強)	(社) 日本ガールスカウト日本連盟 事務局次長
金子　和正	調査安全	東京家政学院大学 教授
神谷　稔	指導者養成(増強)	田上税務会計事務所 税理士
粥川　道子	指導者養成(増強)	北翔大学 教授
川村　協平	普及（朝霧）	山梨大学 教授
久保田　康雄	普及（CAMPING 編集）	(独法) 国立青少年教育振興機構 NYC 運営部長
後藤　信郎	組織整備	東京都キャンプ協会 事務局長
小林　孝之助	特別委員会（中期総合計画）	(公財) ボーイスカウト日本連盟 事務局次長
小森　伸一	調査安全	東京学芸大学 講師
近藤　剛	組織整備	鳥取短期大学 准教授
佐々木　豊志	普及（アカデミー）	くりこま高原自然学校 代表
澤田　祥子	普及（CAMPING 編集）	(公財) 東京 YWCA マネジャー
柴田　俊明	特別委員会（朝霧 2011）	(財) 伊藤忠記念財団 助成事業部長
翠尾　由美	普及（CAMPING 編集）	(財) 児童育成協会 こどもの城 主任指導員
鈴木　由美	指導者養成(養成)	YMCA スポーツ専門学校(横浜 YMCA) 講師
高橋　伸	普及（アカデミー）	国際基督教大学 講師
髙見　彰	特別委員会（中期総合計画）	大阪国際大学 教授
多田　聡	特別委員会（キャンプ白書）	明治大学 准教授
橘　直隆	普及（朝霧）	元筑波大学 教授
月橋　春美	調査安全	宇都宮短期大学 准教授
鶴川　高司	普及（アカデミー）	(有) 掌～Tanagokoro 代表取締役
時安　和行	指導者養成(増強)	至学館大学 准教授
冨山　浩三	指導者養成(養成)	大阪体育大学 教授
中村　正雄	指導者養成(養成)	大東文化大学 教授
永吉　英記	調査安全	国士舘大学 講師
西島　大祐	指導者養成(増強)	鎌倉女子大学短期大学部 講師
布目　靖則	調査安全	中央大学 准教授
濱谷　弘志	指導者養成(養成)	フリーランス
林　健児郎	普及（CAMPING 編集）	フリーランス
針ヶ谷　雅子	普及（アカデミー）	明治大学 非常勤講師
平田　裕一	普及	至学館大学 教授
福田　年之	普及（CAMPING 編集）	朝日新聞厚生文化事業団 事業課長
藤井　三弥子	組織整備	(株) 名古屋東急ホテル CS 推進室マネジャー
逸見　博幸	組織整備	大仙市役所 社会福祉参事
星野　太郎	調査安全	高尾の森わくわくビレッジ 事務局長
水沢　利栄	調査安全	福井大学 准教授
森園　忠勝	組織整備	国立室戸青少年自然の家 所長
師岡　文男	普及（アカデミー）	上智大学 教授
山下　耕二	調査安全	(財) 大阪市青少年活動協会
吉松　誠一郎	組織整備	佐賀新聞社 東京支社 営業部次長
渡邉　仁	調査安全	筑波大学 助教

各人の役職、所属団体の法人名等は就任当時のものです。

事務局スタッフ(平成 24 年 3 月 31 日現在)

事務局長	吉田　大郎	事務局次長	幾田　雅彦	課　長	秋山　千草	主　幹	高瀬　宏樹
主　査	戸室　勇児	主　事	金山　竜也	主　事	吉野　宏美		

都道府県キャンプ協会一覧（平成 23 年度）

名称	設立年月	ホームページ
北海道キャンプ協会	1992 年 6 月	
青森県キャンプ協会	2005 年 11 月	
岩手県キャンプ協会	1993 年 5 月	http://iwate.camping.or.jp
宮城県キャンプ協会	1998 年 10 月	http://blog.canpan.info/cam/
秋田県キャンプ協会	1994 年 4 月	
山形県キャンプ協会	1987 年 4 月	
福島県キャンプ協会	1981 年 1 月	
茨城県キャンプ協会	1993 年 10 月	http://ibaraki.camping.or.jp
栃木県キャンプ協会	1988 年 11 月	http://tochigi.camping.or.jp
群馬県キャンプ協会	1967 年 9 月	
(NPO) 埼玉県キャンプ協会	1985 年 7 月	http://saitama.camping.or.jp
(NPO) 千葉県キャンプ協会	1984 年 6 月	http://chiba.camping.or.jp
神奈川県キャンプ協会	1987 年 4 月	http://www.geocities.co.jp/SilkRoad-Ocean/1662/onraak.html
(NPO) 東京都キャンプ協会	1981 年 10 月	http://www.camp-tokyo.org
新潟県キャンプ協会	1977 年 4 月	http://niigata.camping.or.jp
富山県キャンプ協会	1987 年 6 月	http://toyama.camping.or.jp
石川県キャンプ協会	1991 年 5 月	http://ishikawa.camping.or.jp
山梨県キャンプ協会	2009 年 3 月	
長野県キャンプ協会	1998 年 2 月	
岐阜県キャンプ協会	1997 年 7 月	http://gifu.camping.or.jp
静岡県キャンプ協会	1998 年 4 月	http://shizuoka.camping.or.jp
愛知県キャンプ協会	1983 年 5 月	http://www5a.biglobe.ne.jp/~aca
三重県キャンプ協会	1987 年 5 月	
滋賀県キャンプ協会	1987 年 3 月	
京都府キャンプ協会	1980 年 6 月	http://kyoto.camping.or.jp
大阪府キャンプ協会	1992 年 2 月	http://osaka.camping.or.jp
兵庫県キャンプ協会	1988 年 4 月	http://hyogo.camping.or.jp
奈良県キャンプ協会	1988 年 6 月	
和歌山県キャンプ協会	1998 年 6 月	
鳥取県キャンプ協会	2004 年 4 月	http://blog.livedoor.jp/tottoricamping/
島根県キャンプ協会	1978 年 6 月	
岡山県キャンプ協会	1998 年 5 月	http://okayama.camping.or.jp
広島県キャンプ協会	1995 年 11 月	http://www.hiroshima-camping.jp
山口県キャンプ協会	1969 年 4 月	http://www.yamacan.net
徳島県キャンプ協会	1997 年 10 月	
香川県キャンプ協会	1976 年 11 月	http://kagawa.camping.or.jp
愛媛県キャンプ協会	1994 年 5 月	http://ehime.camping.or.jp
高知県キャンプ協会	1991 年 8 月	
福岡県キャンプ協会	1989 年 4 月	
佐賀県キャンプ協会	1994 年 10 月	
長崎県キャンプ協会	1998 年 11 月	http://nagasaki.camping.or.jp
熊本県キャンプ協会	1979 年 7 月	
大分県キャンプ協会	2005 年 1 月	http://oita.camping.or.jp
宮崎県キャンプ協会	2009 年 12 月	
鹿児島県キャンプ協会	1976 年 5 月	
(NPO) 沖縄県キャンプ協会	1984 年 7 月	

NCAJ

National Camping Association of Japan

公益社団法人日本キャンプ協会　　www.camping.or.jp